

いつしか車に乗り慣れ、緊張感が薄れ、独りよがりな運転の果ての大事故。
甘えの代償は余りに大きい。そしてその先には、償いへの途方もなく長い道が、扉を開けて待っている。

交通安全映画

財団法人 全日本交通安全協会推薦

許される者

—交通事故、責任の重さ—



26分

■ 映画のねらい

普段、車の運転に慣れたドライバー程、警戒心が薄れ安易な気持ちでハンドルを握っていないだろうか？

車の運転に慣れ、漫然とハンドルを握っていると、やがて大きな事故を招くことになる。

この映画は、日常的な運転への過信から、交通死亡事故を起こしながら、責任転嫁をし、自己保身に汲々

としているが、やがて自らの愚かさに気付き、心から謝罪をし、生涯をかけた償いを誓う、或るドライバーの姿を描いている。

交通事故が加害者の人生の転落、被害者、加害者の家庭崩壊の悲劇を描き、ハンドルを握ることの責任の重さを、強く訴えるものである。

許されざる者

—交通事故、責任の重さ—

■ あらすじ

○ 過信の果ての大事故

加藤弘は会社の野球チームのエース投手、課長昇進も近いと噂されていた。投球モーションに入るが、突然審判が制止する。「即退場、今日から一年間出場停止!」その顔は部長である。やがて現実引き戻される。

交通死亡事故を起こし、実刑判決を受け、会社をクビになり、妻にも逃げられ、絶望の淵に立ち、歩道橋の上から、「何故だ、何故許してくれないんだ!」と絶叫する。それは半年前…。

加藤弘は、出産間近な妻良子を病院に連れて行くため、車を急がせていた。制限速度を超えるスピードと、過去の度重なる違反歴の弘に不安を感じる良子。道に迷い地図に目をやり、脇見運転をしたその時、先の交差点の横断歩道を渡っていた小2の本多マリをはねてしまう。

・事故直後から保身に汲々とする弘。遺族に謝罪に行くが体裁だけ。内心、これは事故なんだ、自分についていない。実際は前を見ていなかったにもかかわらず、この事故は本多マリの飛び出しが原因だと繰り返す。

○ 被害者・加害者の家庭崩壊

弘は、被害者の本多宅を何度か訪問した末ようやく通される。そこには娘の死後、精神的に立ち直

れない、病的な妻和子の姿があった。弘は和子に「マリを返して!それが出来なければ、代わりに、お腹の中にいる子どもを私にください」と言われ、立ち尽くす。

家に帰りありのままを良子に話す弘。弘の変わることのない自分勝手な態度に不信感を募らせていた良子は、そんな弘に心から、嫌悪感を覚えるようになる。やがて良子は家を出てしまう。

○ 反省と孤独な旅立ち

手立てを尽くして良子を探すが見つからない。

被害者が示談に応じないまま、やがて起訴され、実刑判決が下る。控訴をとあがく弘だが、弘の過去の運転歴では無理だと、弁護士に冷たく突き放される。そして会社も辞職に追い込まれる。

すべてを失い、夕暮れの野球場のマウンドに一人立つ弘。そこに良子がやって来る。

家を出て考えたことを話し合う二人。良子は生まれてくる子どものためにも、謙虚に反省しこれから償っていかうと弘を諭す。自己保身のために、マリの飛び出しだと思い込んでいたことを恥、心から悔やむ弘。

夜の事故現場で、ひざまずき、手を合わせ、泣き崩れる弘。

しかし、弘は償いへの扉を今開けたばかり。これから生涯をかけた途方もなく長い償いの人生を歩んでゆかなければならないのだ。

キャスト

新藤 栄作 大空 はね太
藤咲 舞 大澤 敏夫
叶岡 伸 角田 隆
志賀谷 ゆい 清水 政

スタッフ

製作 村山治久
脚本 板谷恒男
監督 板谷恒男
撮影 遠藤一彰

製作主任 青山 博
助監督 岡 政門
音楽 志賀 豊
録音 戸部 政明

撮影協力 東所沢病院
銀座中央法律事務所
重要文化財 吉田家住宅
製作協力
株式会社 春日野

・お問合せ・お申込みは



有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp>

【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp